

## スケトウダラ日本海北部系群 追加資料

本系群を対象とした第2回および第3回資源管理方針に関する検討会において質問を受けた、2021年漁期から5年間の漁獲量を10,000トンに固定した場合における、①漁獲割合と②漁獲圧が最大持続生産量を実現する漁獲圧(Fmsy)を上回る確率について以下に示す。

### ① 2021年漁期から5年間の漁獲量を10,000トンに固定した場合における各年の漁獲割合

2015～2025年漁期の資源量、漁獲量、漁獲割合を表1に示した。2021年漁期から2025年漁期の漁獲割合は4～5%と予測された。なお、直近5年間(2015～2019年漁期)における漁獲割合の平均は5%であった。

表1. 2015～2025年漁期の資源量、漁獲量、漁獲割合

漁期年	資源量 (千トン)	漁獲量 (千トン)	漁獲割合 (%)
2015	83	5.4	6
2016	81	6.0	7
2017	102	5.3	5
2018	145	5.6	4
2019	154	5.2	3
2020	175	6.7	4
2021	204	10.0	5
2022	213	10.0	5
2023	226	10.0	4
2024	236	10.0	4
2025	247	10.0	4

2020年漁期の漁獲量はTACである6.7千トンとした。2021～2025年漁期の資源量は、将来予測の10,000回のシミュレーションにおける平均値である。

### ② 2021年漁期から5年間の漁獲量を10,000トンに固定した場合における、各年の漁獲圧(F)が最大持続生産量を実現する漁獲圧(Fmsy)を上回る確率

F比(F/Fmsy)の推移を図1、FがFmsyを上回る確率を表2に示した。2021～2031年漁期の漁獲圧がFmsyを上回る確率は0%であった。漁獲量を10,000トンよりも少ない7,000～9,000トンで固定した場合はさらに漁獲圧が低いため、Fmsyを上回る確率は0%である。

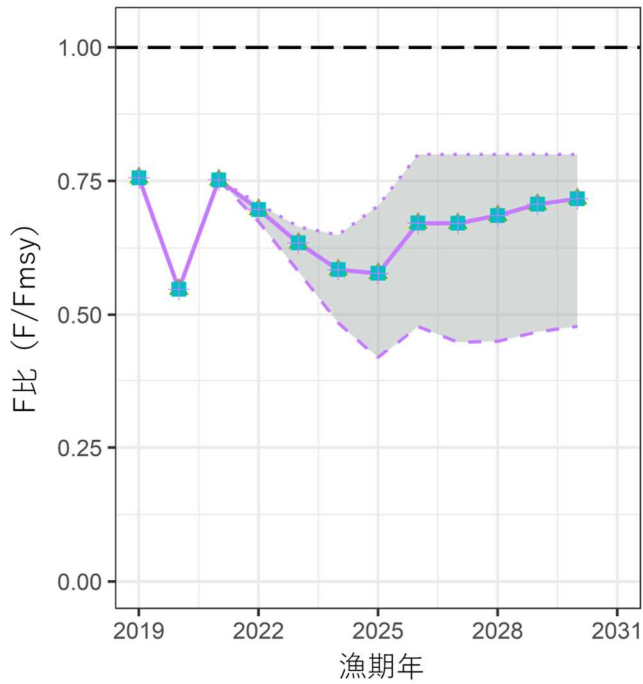


図 1. F 比 (F/Fmsy) の推移

2020 年漁期の漁獲量は TAC である 6.7 千トン、2021～2025 年漁期の漁獲量は 10 千トンとし、それ以降は漁獲管理規則案に基づき漁獲するとした。漁獲管理規則案で用いる  $\beta$  は 0.8 とした。太実線は平均値、網掛けは 90%信頼区間である。

表 2. 各年の F が Fmsy を上回る確率

$\beta$	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
0.8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2020 年漁期の漁獲量は TAC である 6.7 千トン、2021～2025 年漁期の漁獲量は 10 千トンとし、それ以降は漁獲管理規則案 ( $\beta=0.8$ ) で漁獲するとした。